

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成22年3月11日(2010.3.11)

【公開番号】特開2009-60318(P2009-60318A)

【公開日】平成21年3月19日(2009.3.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-011

【出願番号】特願2007-225133(P2007-225133)

【国際特許分類】

H 0 4 R 5/027 (2006.01)

H 0 4 R 1/00 (2006.01)

H 0 4 R 1/10 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 5/027 Z

H 0 4 R 1/00 3 2 8 D

H 0 4 R 1/10 1 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月26日(2010.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 受音部と第 2 受音部を有する複数のマイクロフォンを保持するためのマイクロフォンホルダーであって、ホルダー本体には、複数のマイクロフォンがそれぞれ着脱可能に係合すべき複数のマイクロフォン係合凹部が、互いに異なる向きに形成され、これらのマイクロフォン係合部には、複数のマイクロフォンがそれぞれの第 1 受音部をホルダー本体の外側へ向けると共にそれぞれの第 2 受音部をホルダー本体の内側へ向けて係合するマイクロフォンホルダー。

【請求項 2】

更に、ホルダー本体を使用者の身体に係止するための係止手段を具えている請求項 1 に記載のマイクロフォンホルダー。

【請求項 3】

前記ホルダー本体には、複数のマイクロフォン係合凹部を互いに仕切る仕切り壁が形成されている請求項 1 又は請求項 2 に記載のマイクロフォンホルダー。

【請求項 4】

前記ホルダー本体の複数のマイクロフォン係合凹部は、ホルダー本体と交差する 1 平面上の 1 点を中心として点対称の位置に形成されている請求項 1 乃至請求項 3 の何れかに記載のマイクロフォンホルダー。

【請求項 5】

前記ホルダー本体には、マイクロフォン係合凹部に係合したマイクロフォンから伸びるコードの基端部を保持するための保持部が形成されている請求項 1 乃至請求項 4 の何れかに記載のマイクロフォンホルダー。

【請求項 6】

前記ホルダー本体は、弾性を有する樹脂から形成されている請求項 1 乃至請求項 5 の何れかに記載のマイクロフォンホルダー。

【請求項 7】

複数チャンネルの録音を行なうための複数のマイクロフォンと、これらのマイクロフォンを保持するためのマイクロフォンホルダーとから構成され、マイクロフォンは、第1受音部と第2受音部を有し、第2受音部から第1受音部へ向けて音響の通過が可能であり、マイクロフォンホルダーのホルダー本体には、複数のマイクロフォンがそれぞれ着脱可能に係合すべき複数のマイクロフォン係合凹部が、互いに異なる向きに形成され、これらのマイクロフォン係合凹部には、複数のマイクロフォンがそれぞれの第1受音部をホルダー本体の外側へ向けると共にそれぞれの第2受音部をホルダー本体の内側へ向けて係合するマイクロフォン装置。

【請求項8】

マイクロフォンを耳に装着した状態で、前記第1受音部は耳の内側を向き、前記第2受音部は耳の外側を向く請求項7に記載のマイクロフォン装置。

【請求項9】

マイクロフォンホルダーは、ホルダー本体を使用者の身体に係止するための係止手段を具えている請求項7又は請求項8に記載のマイクロフォン装置。